

宇都宮市立宝木小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約6ポイント高い。

○「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約3.5ポイント高い。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約2ポイント低い。

・各学校行事や、各クラスでの学校生活で自分の良さを実感できる機会があり、その中で教師に良いところを認めてもらったり、児童が幸せな気持ちになったりすると感じている割合が高い。今後も様々な活動を通して、自分の良さや成長を実感できるよう、自己評価や他者評価・相互評価を取り入れて、認め合う機会を増やしていきたい。

・基本的に前向きに毎日を過ごすことはできているが、将来の夢や目標など、長期的な目線で見通しを立てて生活することには課題がある。それぞれの児童の良さを認めるとともに、幸せになる経験をさせることで、自分の将来の人生について考えられるように関わり続ける。

○「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約5ポイント高い。

○「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かししながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約1ポイント高い。

・プレゼンテーションやまとめなど、他者意識を持ちながら自分の学習してきたことを活用したり発表したりすることには、自信を持っている児童が多い。この先の学習においても、知識を取り入れる学習に終始するのではなく、他者に向けて表現したり、そのために試行錯誤したりする活動を多く取り入れていく。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約5ポイント高い。

●「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問に対する肯定割合は全国平均より約5ポイント低い。

・児童同士が話し合ったり、その中で問題解決の方法を考えたり出来ると感じている児童の割合が高い。問題解決する際に、児童が自己決定したり自己選択したりして、自分たちで問題解決をしたと感じられるように指導してきたことが要因と考えられる。今後も、児童が納得感をもって、自己決定・自己選択し、その結果良い方向に向かえたと捉えられるように関わっていききたい。また、学級の意思決定には話し合いがうまく機能しているが、自分自身の課題とつなげて話し合うことはできていないと感じている児童もいるようである。学級の課題と自分の課題をつなげてより自分事として捉えられるように、個々の児童の目的や目標設定を促し、学級や学校のゴールとつなげながら児童と関わっていききたい。

宇都宮市立宝木小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・単元のまとまりを見通した授業をデザインした上で、導入や発問を工夫したり、学習課題を明確化したり、課題にじっくりと取り組めるようにし、主体的に学ぶ態度を育成する。	・3教科共に、知識・技能は国や市の平均を下回っている。それに付随して、思考・判断・表現も低い。 ・質問紙において、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」は高い数値である。教師が認めていることは伝わっているの、児童の自己肯定感や帰属意識などを今後も育てていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・ICTの活用など方法としての授業改善は進んでいるものの、調査結果を見ると深い学びにまで授業改善が進んでいない。	・対話的な学び、深い学びの実現に向けて評価の共有化をすることで授業改善を図る。	・教師と児童の評価の共有化を推進する。 ・教師が育てたい力と目指す子供の姿を明確にして授業に臨む。 ・児童に目指すゴール像を示してから授業に臨む。 ・学校全体で家庭学習の具体的な方法や目安などを共有し、学習の習慣化や反復、習熟を図る。